



→現在は代表と小学生～高校生7人のメンバーで活動中。人数はここ数年で3分の1に減ったが、礼節を重んじた立ち振る舞いと躍動感のある演奏で見る人に感動を与えています。



←↑町内外のイベントステージや学校、施設の祭りなどでおなじみの福智炎蓮太鼓。演奏は動画共有サービスYouTubeでも公開されています。



→大小さまざまな太鼓のほか、打楽器を中心に「篠笛(しのぶえ)」、「鉄筒(てつとう)」、「銅鑼(どら)」、「竹」、「チャッパ」など、1回の出演で全員が数種類を演奏します。



創作和太鼓
fukuchi enrendaito
「福智炎蓮太鼓」

桜が再び 舞う日まで

—和太鼓で奏でるまちの魅力

まちの魅力を表現したい。その思いから「祭囃子」や福智山中腹に咲く「虎尾桜」などをテーマに作曲した町内唯一の創作和太鼓チーム「福智炎蓮太鼓」の木村隆希さん。伝統に創意工夫を重ね、少しずつ変化してきているチームの若き代表に思いを伺いました。

創作和太鼓というジャンル

ズシンと胸に響く力強いリズムを、ダイナミックで流れるようなバチさばきで打ち鳴らす。全身のバネを生かし、まるでダンスとスポーツと武術と伝統芸能が融合したようなパフォーマンスを見せる演者。その「静」と「動」の組み合わせは、太鼓に音階が無いことを忘れさせるほど表現力に優れ、観客を魅了します。

「福智炎蓮太鼓」は、平成25年2月に「方城和太鼓クラブ」の流れを継いで誕生した町内唯一の創作和太鼓チーム。現在代表を務める木村隆希さんは、伊方小2年の時にクラブに入り、その後14年間和太鼓に向き合ってきた。



福智炎蓮太鼓
木村 隆希 代表

「虎尾桜」を咲かせたい

福智山中腹にそびえる孤高の一本桜、虎尾桜。齢6百年を超え、かつては人々に忘れ去られたまま朽ちようとしていた桜です。その後地元住民の手入れによって命を吹き返し、今や毎年5千人が訪れる人気の観光スポットとなりました。そのストーリーに心引かれ、木村さんは4年前に「虎尾桜を心配する世話人会」に参加。会員として実際に周辺整備なども行いました。

「虎尾桜を知らなければ知るほど、ただ曲名に名前だけ借りるようなことはしたくありませんでした。一連のストーリーを表現し、桜を知っている人がイメージできるような曲に仕上げたつもりです」と木村さん。強い思いを込め、お

伝統に新たな風を加えて

最初は15年ほど前に「町全体を盛り上げるものとして定着させよう」と、当時の伊方小の福澤校長と当時のPTA杉原会長が立ち上げた和太鼓クラブ。今もずっと炎蓮太鼓を気にかけて、応援してくれている二人に、木村さんは「今の炎蓮太鼓があるのはお二人のおかげ」と感謝を語り、その思いを継ぎながら「これからはその築かれた土台に、新たな風を加え、メンバーの成長につなげていきたい」と話しました。



↑県内最大のエドヒガン。枝先が虎の尾に似ていると言われ、炎蓮太鼓の演目「虎尾桜」もこの枝の形をイメージし、左右非対称の配置をとる。

メンバー募集中／何歳でもOK!



練習は毎週 田・回に「児童センター」または隣接する「ほのぼの館」が利用可能。参加はメンバーの自主性に任せている。見学可。
 田 木村代表 ☎080-2723-9802



Souichi.T
田中 聡一くん
 小3 / 太鼓歴5か月



Kaichi.K
金崎 喜一くん
 小2 / 太鼓歴2年目



Momoka.K
金崎 桃華さん
 小5 / 太鼓歴2年目



Souma.S
世良 崇真くん
 小3 / 太鼓歴3年目



Fumiya.S
沢永 典弥くん
 小6 / 太鼓歴4年目



Ryosuke.S
沢永 椋介くん
 中3 / 太鼓歴4年目



Tabasa.K
木村 羽咲さん
 高2 / 太鼓歴5年目



福智炎蓮太鼓
 メンバー
 2016.10時点



体験期間中の子に指導する最年少メンバー。練習場はピリッとした空気が張り詰め、ふざける子はいません。

2年前、炎蓮太鼓は「日本太鼓ジュニアコンクール」に出場。初めて九州大会に進み、指導者として参加した木村さんは、上位入賞チームは控室の様子や礼儀から違うことに気付いたといいます。心の状態や普段からの生活態度が、演奏にも表れるということ。その後、より「心」を重視するようになりました。「心・技・体」というとおり、何よりもまずは「心」の強さがあったこそ。礼節や規律、精神力をはぐくむことで、技術はついてくるものではないでしょうか。炎蓮太鼓の子をはじめ、その礼儀や生活態度が、周囲も巻き込んでいたらいと思っています。

心の強さを鍛えたい

「単に太鼓の技術向上だけを望んでいるわけではありません」。木村さんはそう言い切ります。指導方針が最も表れているのが、練習。練習場を使える日時は決まっていますが「練習しなさい」とはほば言わないのだとか。それは子どもたちに自ら「自分の演奏はどうだったか」「練習量はどうか」「考えたか」を考えさせるため。あとは本人の自主性に任せて、一人でも練習したいという子がいれば、何時間でも付き添います。「太鼓には「これで満点」という決まりは無いので、やろうと思えばどこまででもやれる世界。何時から練習、と義務付けて指導すれば確かに技術は上がるかもしれませんが、あくまでも一人ひとりが自分の演奏を振り返り「何を目標にし」「そこに達するためにどうすべきか」を考える力を身に付けてほしい。そういった心の成長に重きを置いています。同じ土俵の中で子どもがどれだけ成長できるかは親次第。親子の絆、親の支えが不可欠です。」

技術よりも心を優先。
 自ら「考える力」をつけて
 生きる力をはぐくむ。

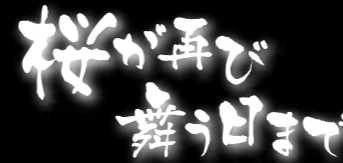
Information

※出演時間は変更になる場合があります。

- ▶11月5日 土
 ものづくり技能フェスティバル(小竹高等技術専門学校)
 10:00～14:30 (出演▶12:30頃)
- ▶11月12日 土
 福智町ふれあいコンサート(福智町地域交流センター)
 13:00～16:00 (出演▶13:00頃)

- ▶11月26日 土
 和太鼓響宴(田川文化センター) ▶全席自由: 大人2,500円
 18:00～20:30 (出演▶19:00頃)
 田川ライオンズクラブ ☎0947-44-4870 (チケット販売中)
- ▶11月27日 日
 豊産区ふれあいフェスタ(香春町町民センター2階)
 10:00～14:30 (出演▶14:00頃)

創作和太鼓
 Fukuchi Anren Taiko
 「福智炎蓮太鼓」



人生で大切なことを和太鼓から学ぶ



11月は上記の公演が控えている炎蓮太鼓のメンバー。みなさまの応援をよろしく願います。

まずは太鼓に触れて

失敗をチャンスととらえ、乗り越えることで人は成長します。ただ、物事に適当な気持ちで取り組んでいれば、悔しさを感じること、喜びや達成感を感じることもないでしょう。これは太鼓に限らず何にでも言えること。「やる時はとことんやって、地域に愛される、自慢のチームになれたらいいですね」と炎蓮太鼓へエールを送りました。



全九州太鼓連合
 川原 邦裕 副会長

「各地で子どもたちに和太鼓を教えています。彼らには、今のうちにたくさん挫折や失敗を経験してほしいですね」と話すのは、全九州太鼓連合の副会長で「和太鼓集団 野武士」の代表・川原邦裕さん(嘉麻市)。以前からのつながりで、児童センターで月2回の和太鼓指導を行っています。「毎日ものすごく練習を積み、大会の日のために頑張ってきた子が、当日、バチを落としてしまったり、日ごろしない失敗をすることがあります。そんな時、子どもも1か月ぐらいいは立ち直れないんですよ。頑張ってきたからすごく落ち込むし、悔しい、悲しい思いをする。ただ、社会に出たらもっと大変なことがいっぱいありますよ。その時に、挫折した時の立ち直り方、乗り越え方、うたれ強さ...そういった太鼓での経験をとおして、人生の教訓を学んでほしいんです。」

今の経験を人生の教訓に